

八三一番

春はるなれば うべも咲さきたる 梅うめの花はな 君きみを思おもふと  
夜眠よいも寝ねなくに

八三二番

梅うめの花はな 折をりてかざせる 諸人もろひとは 今日けふの間あひだは  
楽たのしくあるべし

八三三番

年としのはに 春はるの来きたらば かくしこそ 梅うめをかざし  
て 楽たのしく飲のまめ

八三四番

梅うめの花はな 今いま盛さかりなり 百鳥ももどりの 声こゑの恋こほしき 春来はるきた  
るらし